# PRESS RELEASE

**2026 年 11 月 16 日**

## アラガン・エステティックス、日本初の E 型ボツリヌス毒素製剤「ボーウィ®注用 1400 単位」の製造販売承認を取得

- 成人の眉間の表情皺に対する新たな治療選択肢として、日本初の E 型ボツリヌス毒素製剤を提供
- 国際共同第 III 相試験および海外第 III 相試験等の結果に基づく承認

アッヴィ合同会社アラガン・エステティックス（本社：東京都港区、プレジデント：エミリー ・ドゥマールディエ。以下、アラガン・エステティックス）は、本日、成人の眉間の表情皺を効能又は効果とする E 型ボツリヌス毒素製剤「ボーウィ®注用 1400 単位」（一般名：トレニボツリヌストキシン E、以下「ボーウィ」）の、日本における製造販売承認を取得したことをお知らせします。ボーウィは、トレニボツリヌストキシン E を有効成分とする、日本初の E 型ボツリヌス毒素製剤です。

眉間の表情皺は、加齢や顔の表情筋の繰り返しの動きによって形成され、怒り、不安、非難など、意図しない印象を周囲に与えることにつながります [1,2]。また、顔の表情皺は自尊心の低下や幸福感の減少など、心理的・社会的にも影響する可能性が報告されています [3-5]。

本承認は、中等度から高度の眉間の表情皺を有する成人を対象とした国際共同第 III 相試験および海外第 III 相試験等、複数の臨床試験で得られた有効性および安全性データに基づいています。

アラガン・エステティックス ジャパンのプレジデント、エミリー・ドゥマール ディエは、次のように述べています。「日本におけるボーウィの承認取得は、アラガン・エステティックスにとって重要な節目となります。患者さんのニーズや期待が変化し続ける中、ボーウィは眉間の表情皺に対する新たな治療選択肢として、一人ひとりのニーズや治療目標に応えることを目指しています。私たちは、今後もイノベーションを通じて、日本の美容医療のさらなる発展に貢献してまいります。」

**ボーウィ®注用 1400 単位について**

| | |
|---|---|
| **販売名** | ボーウィ®注用 1400 単位 |
| **一般名** | トレニボツリヌストキシン E |
| **効能又は効果** | 眉間の表情皺 |
| **用法及び用量** | 通常、成人にはトレニボツリヌストキシン E として合計 700 単位を左右の皺眉筋に各 2 部位（合計 4 部位）及び鼻根筋 1 部位に均等に分割して筋肉内注射する。 |

**E 型ボツリヌス毒素について**

E 型ボツリヌス毒素が運動神経終末の受容体に結合して神経終末に取り込まれ、アセチルコリンの放出を阻害することによってコリン作動性の神経伝達を遮断します。この作用機序が、局所的な筋弛緩作用をもたらし、筋肉内投与後数時間以内に局所的な筋肉の収縮抑制を生じます。作用は一過性であり、神経終末の神経伝達物質機能の回復によって時間の経過とともに神経機能が回復します。

**アラガン・エステティックスについて**

アッヴィ合同会社アラガン・エステティックスは、先進の美容医療を牽引する製品およびブランドを開発・製造し、販売しています。私たちは、顔への注入治療製品、脂肪冷却による部分的な皮下脂肪減少治療、形成外科関連製品、スキンケアなど美容医療領域における幅広い製品とソリューションを提供しています。また、イノベーション、教育、優れたサービス、そして高い品質を一貫して、顧客の皆様のニーズに沿って提供することを目指しています。アラガン・エステティックスの詳細については、公式サイト www. allerganaesthetics.jp をご覧ください。Instagram や美容情報総合サイト www.allerganbeauty.jp でも情報を公開しています。

**アッヴィについて**

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製とソリューションの提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、精神・神経疾患、がん、さらに美容医療関連のアラガン・エステティックスポートフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、www.abbvie.com をご覧ください。LinkedIn, Facebook, Instagram, X や YouTube でも情報を公開しています。

日本においては主に、免疫疾患、肝疾患、精神・神経疾患、がん、アイケアの領域、さらに美容医療関連の アラガン・エステティックスのポートフォリオで、製品の開発と提供に取り組んでいます。アッヴィの詳細については、www.abbvie.co.jp をご覧ください。Facebook、Instagram や YouTube でも情報を公開しています。

**References:**


1. Khan JA. Aesthetic surgery: diagnosing and healing the miscues of human facial expression. Ophthalmic Plast Reconstr Surg. 2001;17(1):4-6.
2. Finn JC, Cox SE, Earl ML. Social implications of hyperfunctional facial lines. Dermatol Surg. 2003;29(5):450-5.
3. Koblenzer CS. Psychologic aspects of aging and the skin. Clin Dermatol. 1996;14(2):171-7.
4. Dayan S, Yoelin SG, De Boulle K, et al. The Psychological Impacts of Upper Facial Lines: A Qualitative, Patient-Centered Study. Aesthet Surg J Open Forum. 2019;1(2):ojz015.
5. Yaworsky A, Daniels S, Tully S, et al. The impact of upper facial lines and psychological impact of crow's feet lines: content validation of the Facial Line Outcomes (FLO-11) Questionnaire. J Cosmet Dermatol. 2014;13(4):297-306.